

施策番号	2305		
施策名	公共建築物の先導的整備		
概要	既存公共建築物の最適維持管理の取組を推進するため、耐震化、省エネルギー化、バリアフリー化を含めた計画的改修・修繕を行い、施設の安全性の確保と質の向上を先導的に行う。また、公共建築物の整備に当たっては、京都らしい環境配慮建築物とすること及び景観政策のモデルとなるよう率先的に取り組む。		
担当局・部室	都市計画局・公共建築部	共管局・部室	
上位政策	23 建築物		
施策に関係する 主な分野別計画等	京都市建築物耐震改修促進計画		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		26年度	27年度	28年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウェイト
1	市有建築物の耐震化率(%)	c	c	93	94	95	98.9%	b	1.00
2	市有建築物のCASBEE京都高評価取得率(%)	a	a	100	100	100	100.0%	a	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		b	b	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃を実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		26年度	27年度	28年度回答					
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数
1	バリアフリー化された建物が増えている。	b	b	57 11.4%	199 39.8%	181 36.2%	45 9.0%	18 3.6%	500
2	-	-	-						
3	-								
4	-								
5	-								
		b	b	市民生活実感調査総合評価					b

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている						
	重み付け	☒ 客観指標	a	☐ 市民の実感	b		
(重み付けの理由) 公共建築物の安全性や質の向上については、耐震化や省エネルギー化など市民がその効果を実感しにくい場合があるため、客観指標を重視する。						27 年度	B
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。						26 年度	B

今後の方向性の検討

＜この施策を構成する事務事業＞

	事業名	事業費の状況(千円)		28年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		27年度 決算額	28年度 予算額		
1	物品センター耐震改修	48,143	10,897	－	会計室
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

＜今後の方向性＞

・ 市有建築物の耐震化が課題となっていることから、平成32年度末までに、京都市建築物耐震改修促進計画の耐震化率95%を達成するために、施設所管局に対する情報提供及び技術支援を継続的に実施し、市有建築物の耐震改修を進めている。

・ 公共建築物の整備に当たっては、今後ともCASBEE京都の高評価取得を目指し、京都らしい環境配慮型建築物となるように取り組んでいく。

施策名	2305	公共建築物の先導的整備				
-----	------	-------------	--	--	--	--

指標名	市有建築物の耐震化率（％）						
-----	---------------	--	--	--	--	--	--

担当課	公共建築企画課			連絡先	2 2 2－3 6 4 0		
-----	---------	--	--	-----	---------------	--	--

1 指標の説明

耐震化された市有建築物※の割合
※市営住宅を除く。

2 指標の意味

市有建築物の地震に対する安全性を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	26年度	27年度		数値	根拠	達成度
数値	93.1	94.0	0.9ポイント増	95	京都市建築物耐震改修促進計画に掲げる目標値	98.9%

	全国順位	中長期目標				備考	平成28年3月に京都市建築物耐震改修促進計画が策定されたことに伴い、指標における市有建築物の定義を同計画に合わせる見直しを行った。
		数値	目標年次	達成度	根拠		
数値		95%	32年度	98.9%	京都市建築物耐震改修促進計画に掲げる目標値		

5 評価基準

目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：95%以上～100%未満
c：90%以上～95%未満
d：85%以上～90%未満
e：85%未満

6 基準説明

目標値に対する達成度が100%以上の
場合をaとし、5%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

26	27	28
c	c	b

1 指標の説明

新增築した市有建築物※（延床面積300㎡以上・居室を有するもの）において、京都らしい環境配慮建築物を適切に評価・誘導するための京都独自のシステムであるCASBEE京都による高評価（S・Aランク）取得の割合
※交通局、上下水道局所管施設を除く。

2 指標の意味

市有建築物が京都らしい環境配慮建築物になっているかを示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	26年度	27年度		数値	根拠	達成度
数値	100	100	増減なし	100	新增築するすべての市有建築物（延床面積300㎡以上・居室を有するもの）において、CASBEE京都の高評価取得を目指す。	100.0%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						

5 評価基準

最新数値が
a：100%
b：75%以上～100%未満
c：50%以上～75%未満
d：25%以上～50%未満
e：25%未満

6 基準説明

CASBEE京都による高評価取得の割合が100%をaとし、25%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

26	27	28
a	a	a